



岩手よ もっと 2010

2010年の幕開け。社会全体に沈滞ムードがただよう中、岩手が持つ素材、技術力を活かし、自らの感性を信じて新たな事業展開に挑むフロンティアたちに熱い思いをお聞きました。

クオリティーの高い ものづくり企業を目指して

業界環境は厳しいです。まず百貨店で衣料品が売れていません。アパレルメーカーはプロパー消化率が悪いために本来は追加生産する時期なのに在庫を心配して商品をつくれな。加えて低価格商品が氾濫してますます状況を悪くしています。しかし、商品は氾濫しているけれども欲しい商品が無い、そんな状況ではないでしょうか。

そんな中で少しだけ変化も現れ始めています。やはりいいものは価格が高くても売れているんです。これは二極化が明確になってきたということでしょう。安ければよいという一方で、気に入ったものがあれば少々高くても買う。そういった意味では我々が目指している、クオリティーの高いものづくり企業の生き延びる道は開けていると思っています。

ブランドと価格を後押しするのはクオリティーです。陳列してある洋服を見て、ああいいなと感じさせる。それは基本品質を超えた、感性を含んだ技術です。当社では6年前からものづくりの原点に立ち戻って技術力向上のための人材育成に力を注いできました。それがここに来て成果を出しつつあります。今年も目先を追うのではなく、我慢し

岩手モリヤ株式会社

代表取締役社長

森奥 信孝さん



耐えながらさらに高いクオリティーの商品づくりを目指し、“高級婦人ジャケットは岩手モリヤ”の地位を確立したいと思っています。

10年後なんて想像もつきませんが、同業者の数が今の半分、もしかしたらもっと減るのではないかと。10年後に残るためにも、社員一丸となって、技術力と時代変化に対応できる柔軟な体質をもった会社にしていかなければなりません。

昨年「雇用創出企業1400社」に選ばれましたが、今年も地元卒卒者を採用する予定です。次の真年にも社員全員この会社で働いていてよかったなあと、明るく新年を迎えられるようになってほしいと思っています。

■岩手モリヤ株式会社

高級婦人既製服の縫製

久慈市/昭和63年設立

ホームページ▶<http://www.ginga.or.jp/iwatemoriya/>

手づくり感と 温かみのある商品づくりを…

このところ消費者の商品を選ぶ目が厳しくなっていることを感じています。単にブランドものだから、単に価格が安いからではなく、中身を伴った品質であり、価格に見合った商品を選ぶ。つまり、確かなものが求められる時代なんだと思います。ですからこれからは、岩手らしい、手づくり感のある、そして温かみある商品をつくってほしいと考えています。

いま取り組んでいるのは、本当に美味しい醤油をつくるための大豆の生産です。これまで3年間、いろんな品種で試行錯誤をくり返し、やっと一つの品種に辿り着きました。実は、美味しい醤油のための大豆の研究というのがこれまで行われていなかったんです。それで今回、工業技術センター、農業研究センターさんなどにも力を貸していただき研究してきました。その大豆は岩手生まれの品種です。無農薬栽培のため草がすく生えるので、これからは障がい者の人たちにも草取りを手伝ってほしいながら生産することにしています。

2年前から始めたエゴマを使った醤油はお陰様で好評で、今年は農家の皆さんに増産をお願いしなければと思っ

株式会社浅沼醤油店

専務取締役

浅沼 宏一さん



ています。この醤油は、アレルギーのため学校給食を食べられない児童、生徒がいることを聞いて、なんとかしようと始めたものでした。麹菌がなかなかエゴマに馴染まなくて苦労しましたが、これも研究機関の協力で商品化できました。

いわて農工商連携ファンドを活用した新しい事業に取り組む中で、いろいろな人たちと関わりができました。農家の人、研究機関の人、メディア…。こういう経験は初めてでした。世界が広がった気持ちです。

5年先か10年先か、一緒に仕事に燃えた仲間たちとともに、思い出話を肴にして美味しい酒が飲み交わせたらいいなあとと思っています。

■株式会社浅沼醤油店

醤油・味噌・清涼飲料水製造

盛岡市/大正3年創業

ホームページ▶<http://www.asanumashoyu.co.jp/>



元気になれ!



地元素材、独自の味付け 将来は自分の牧場から…

消費が落ち込んでいるので業界的には厳しいですね。ただ、うちはお陰様で得意先が少しずつですが増えていきます。直売所の方もよく売れています。売れ筋は、やはり地元の素材を使った食品が中心です。南部からあげ(南部産)とか“ごく(極)シリーズ”と銘打っているホルモンなどが人気です。安心、安全、それとうち独自の味付けが評価されているんだと思います。調味料にも県産の塩、醤油を使わせてもらっていますから高くつきます。ですから、値段で勝負するようなどころでは売れませんので、直売所と移動販売カーで販売しています。移動販売カーは2台あって、いろいろなイベントの会場に出させてもらっています。お客様の反応を見るにはいい方法です。

昨年、希望ファンドを使って商品開発をしました。今年も新しいものを出していこうと考えています。もう頭の中ではできていて、試作試食中です。最近のお客様は、商品に価値を感じないと買わないですから、地元素材にこだわって、うちでしかできないものをつくっていこうと思っています。

株式会社アリメント

代表取締役社長

中田 和幸さん



将来の夢としては、自分で牧場を持ちたいなああと。今も生産者の方と一緒にやっているんですが、やっぱり自分で牛、豚、鶏を飼うところからやってみたいです。なんといっても岩手の風土が魅力ですからね。牧場で馬に乗ったりとか、夢を描いています。

あと、スポーツに関わっていきたいですね。現在、サッカーのグルージャ盛岡とスポンサー契約しています。毎週のように応援にも行っています。選手たちに美味しいものをたくさん食べてもらって、強くなって今年こそもう1つ上を狙ってもらいたいと思っています。

■株式会社アリメント

食肉加工・卸販売

矢巾町/平成16年設立

ホームページ▶<http://www.11298.co.jp/>

3回目目の年男 新規業務の完成を目標に

うちの会社はデジタルカメラ用の組込みソフト開発が主力です。

最近ではメーカーさんが外注から内製に切り替える傾向があって、組込みソフト業界は厳しいと思います。ただ、去年夏頃から仕事が少し入ってくるようになってきているので、回復のきざしがあるのかなと感じています。

うちでは同一メーカーさんから継続して受注をいただいているので、比較的安定しています。今後も堅調に推移するとみています。

この仕事は好きですね。高校のときからこういう仕事に興味があって、大学でも情報工学を勉強しました。自分たちが開発したソフトが入った製品を家電店などで見ると、いい気分になります。

今年は、初めて受注をいただいたメーカーさんのソフト開発が本格化するので、それをまずしっかりやるのが目標です。

今年、3回目目の年男です。寅年生まれといっても、性格的には内に秘めたというか、あまり活動的ではないですね。休みの日もゲームをすとか、インドアな人間です。

年齢的には30代後半になるので、これまで以上に責任を持って仕事にあたらなければならないと思っています。若い人たちに自分のやってきたことを伝えていこうと思います。

有限会社エボテック

サブマネージャー

清川 勇司さん



この業界では、決まったことだけやってはすぐ置いていかれますので、新しいことを取り入れてやっていかなければならないと思っています。

■有限会社エボテック

組込みソフトウェア開発

盛岡市/平成17年設立

ホームページ▶<http://www.evt.co.jp/>

